

# 平成27年度 研究助成受賞者講演会

入場無料

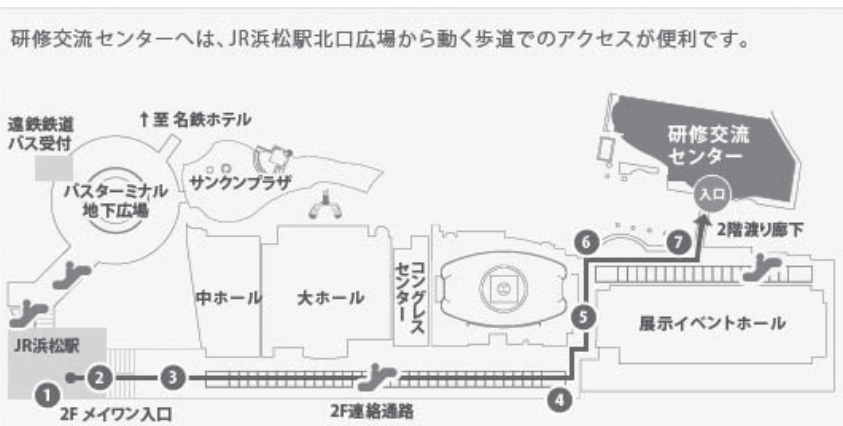
## ■演題 (講演順)

- 平成 26 年度研究助成テーマより  
◇電子ピアノの直接伝達振動/騒音のアクティブ減振 ～減振と加振～ 森 和也氏
- 平成 26 年度研究助成テーマより  
◇伝統的な歌唱を稽古する子どもの歌い方の分析  
—学校教育における歌唱モデルの構築に向けて— 長谷川 慎氏
- 平成 25 年度研究助成テーマより  
◇多種の音律に調律されたポルタティーフォルガンとシンセサイザーによる  
空間的効果の研究とその研究に基づいた作品創作 星谷 文生氏
- 平成 23 年度研究助成テーマより  
◇福祉工学への応用を目指したヒトの聴覚情報における共鳴現象の基礎的検討 田中 慶太氏
- 平成 27 年度研究助成テーマより  
◇人工内耳装用者が音楽を楽しむために編成した演奏を収録  
する方法とその効果の研究 北澤 茂良氏

■開催日時 2016 年 1 月 12 日 (火) 開演 13 時 30 分～16 時 30 分 (開場 13 時)

■場所 浜松駅前 アクトシティ浜松 研修交流センター 6 階  
(浜松市中区板屋町 111-1 TEL053-451-1111)

## 研修交流センター入口までのご案内



### JR 浜松駅 東海道線改札 (メイワン口) からの道順

- ① 2 階にある東海道線改札(メイワン口)より出て、道なりに直進。(東海道新幹線をご利用の方は、在来線乗換え口を通過してください)
- ② 建物を出た後も道なりに進み、連絡路の階段スロープを通過してください。
- ③ 動く歩道に乗り直進してください。
- ④ 250m ほど動く歩道に乗り続け、降りたあとも直進し、正面の角を左に曲がります。
- ⑤ 進み続けると、右手に展示イベントホールの 2F 入口が見えます。
- ⑥ 展示イベントホール 2F 入口の前にある動く歩道を 1 つ通過し左折してください。
- ⑦ 左折して進むと正面に研修交流センター入口の自動扉があります。

## ☆講師及び講演内容（講演順）

### 森 和也氏 熊本大学大学院自然科学研究科 教授

【プロフィール】 博士（工学）、1985年九州大学大学院動力機械工学専攻修士課程修了、同年久留米工業高等専門学校助手。1999年熊本大学工学部知能生産システム工学専攻助教。2006年同大学大学院自然科学研究科教授、現在に至る。

【講演内容】 楽器演奏は人生に潤いを与え、ストレスの多い都会ではリラクゼーションとなる。密集した都会でも、電子ピアノや電子オルガンなどでは、ヘッドフォンを使うことによって心おきなく演奏を楽しむことができる。ところで、電子ピアノや電子オルガンなどの打鍵楽器では、打鍵振動が問題になることがある。打鍵の振動が楽器の台を介して床に伝わり下階への騒音となるのである。本講演では、打鍵振動の床への伝達を加振によって減らす試みを紹介する。

### 長谷川 慎氏 静岡大学教育学領域音楽教育系列 准教授

【プロフィール】 東京藝術大学音楽学部邦楽科箏生田流専攻卒業。東京藝術大学音楽学部大学院音楽研究科音楽教育専攻修士課程修了。9歳より箏をはじめ。主な研究テーマは、学校教育における日本音楽指導、楽器としての地歌三味線の変遷。東京藝術大学、愛知教育大学、洗足学園大学等講師を経て2013年静岡大学教育学部助教。2015年より現職。地歌箏曲演奏家としても演奏活動を展開。

【講演内容】 本研究は、日本の伝統的な歌唱の稽古を受けている子どもの唄い方について、発声やコブシ、唄う高さ（調子）を分析し、学校教育において子どもが伝統的な歌唱を唄う際のモデルを構築していくことを目的とした。平成20年に改訂された現行の学習指導要領（小・中学校）においても、我が国の伝統的な歌唱の取扱いは改訂の柱と位置付けられており、現在の学校音楽教育において、とくに注目されている今日的な課題であるため、歌い方のヒントを子供の学習者の学びから探ろうとした。講演ではその概要を報告する。

### 星谷 文生氏 福井大学教育地域科学部 准教授

【プロフィール】 作曲家 1979年生まれ。作曲を近藤譲に師事。主な活動として、2004年アンサンブル・ノマド英国公演、2007年サルヴァトーレ・マルティラーノ賞（アメリカ）第1位受賞、2011、2012、2014年武生国際音楽祭参加、2011年ロワイヨモン講習会（フランス）、2013年テグ国際現代音楽祭、2014年ハンガリー国際音楽祭カフェ・ブダペスト等に参加。チェロの多井智紀氏と時の形プロジェクトを企画、運営している。現在、福井大学教育地域科学部准教授。

【講演内容】 本講演では、私の研究テーマである特殊な音律を用いた作品創作について解説する。現代の作曲家達は、それぞれに多種多様な方法論によって新しい作品を創作しており、全員に共通するような「決まった作曲手順」というものは存在しない。では、音律の世界においても、一般的に普及している平均律、純正律以外の特殊な音律を用いている作曲家達はどのように自らの作曲技法を考えているのであろうか。講演では、過去の作曲家達の音律に対するアプローチに触れながら私自身の作品創作について述べたい。

### 田中 慶太氏 東京電機大学 理工学部電子・機械工学系 准教授

【プロフィール】 博士（工学）2003年鹿児島大学大学院理工学研究科情報システム工学専攻博士後期課程修了、同年東京電機大学先端工学研究所助手、2008年同大学理工学部助教、2013年より准教授。現在に至る。

【講演内容】 本研究は、聴覚システム（特に聴覚野）における共鳴現象が、どのような条件のときに起こるのか、最適な共鳴条件が明らかになる。この共鳴現象を引き起こす条件を利用することで、微小信号を最適な雑音混入により効率的な信号増幅が可能となり、難聴者の弱った聴覚神経を痛めない補聴器などへの応用の可能性を探る。

### 北澤 茂良氏 静岡大学情報学研究科 名誉教授

【プロフィール】 工学博士、1971年3月 京都大学工学部電子工学科卒業、1976年3月 京都大学工学研究科博士課程単位取得退学、1971年 京都大学工学部情報工学科助手、1985年 静岡大学工学部情報工学科助教授、1994年 静岡大学工学部情報知識工学科教授、1995年 静岡大学情報学部情報科学科教授、2014年3月 定年退職、名誉教授として研究継続。東京医療センター臨床研究センター研究員。

【講演内容】 人工内耳は音声の聴取を前提に開発されたので、音楽聴取には全く不向きである。しかし、人工内耳装用者は聴覚的には不完全にしか音楽が聴取できなくても、大脳で音楽を認知している。すなわち、装用者の記憶に残る音楽は聴取していると認知できる。これを支援するため、技術的には人工内耳向け編曲が、芸術的には一流演奏家による生演奏が有効であることが実験的に確認されたので、実際に、編曲した、芸術性の高い演奏を収録し、CD等で多くの人工内耳装用者に配布して、楽しんでいただけることを確認する。

## ■問合せ・申込み方法（申込み期限1月10日必着）

聴講ご希望の方は、なるべくメールにてお名前と申込み人数をご連絡下さい。 [mail@sound-zaidan.com](mailto:mail@sound-zaidan.com)

（団体・会社から申込みされる場合は、団体・会社名、所属部署、お名前、役職位もご連絡下さい）

会場座席の都合上お申込みはお早目に、また定員超過の場合はご容赦下さい。

個人情報事前に本人の同意を得ることなく第三者に提供いたしません。

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-36-4（全理連ビル）一般財団法人カワイサウンド技術・音楽振興財団事務局

TEL：03-3370-8277 FAX：03-3379-1446 URL：<http://www.sound-zaidan.com>

講演会聴講申込書

団体・会社名

電話・FAX

メール

所属部署	氏名	役職位